

特別展



—— 杉本博司 常陸から大和へ

JOURNEY OF THE KASUGA SPIRIT

令和四年一月二十九日（土）— 三月二十一日（月・祝）  
 神奈川県立金沢文庫

主催：神奈川県立金沢文庫、公益財団法人小田原文化財団、  
 春日大社、日本経済新聞社  
 特別協力：鹿島神宮、法相宗大本山興福寺 後援：小田原市



# 春日神霊の旅 —— 杉本博司 常陸から大和へ

JOURNEY OF THE KASUGA SPIRIT

春日大社は、神護景雲二年(768)に奈良盆地の東に位置する御蓋山の麓に造営されました。その祭神は第一殿が武甕槌命、第二殿が経津主命で、それぞれ常陸国(現茨城県)鹿島神宮、下総国(現千葉県)香取神宮から降臨されたとされます(いわゆる「鹿島立ち」)。すなわち春日大社は平城宮鎮護の守護神ながら東国とも深い所縁があるのです。また春日大社は藤原氏の氏神とされ、氏寺である興福寺と密接な関係を持ちながら、我が国の神仏への信仰の中核を成してきました。

鎌倉時代以降、東国仏教の拠点となった称名寺・金沢文庫には膨大な仏教書である聖教が伝来しますが、その中には奈良ゆかり、とりわけ春日大社・興福寺に関するものが多数含まれており、両社寺の信仰を考えるうえで見逃せません。一方、公益財団法人小田原文化財団は設立者・杉本博司(現代美術作家)によって収集された春日信仰を中心とする神道美術作品を多数所蔵していることから、このたび金沢文庫・小田原文化財団の共催により、東国所縁ともいえる春日信仰を紹介する展覧会を開催する運びとなりました。本展覧会では、春日大社やゆかりの社寺のご宝物に加え、称名寺・金沢文庫、小田原文化財団の史料や作品を紹介することにより春日大社への信仰を広くご紹介いたします。



1



4



3



2

1. 春日若宮曼荼羅 鎌倉時代 小田原文化財団
2. 春日権現験記絵 卷十六解説上人事 鎌倉時代 宮内庁三の丸尚蔵館 国宝
3. 春日社寺曼荼羅 南北朝時代 福岡市美術館(松永コレクション)
4. 春日鹿曼荼羅 鎌倉時代 陽明文庫 重文
5. 地藏菩薩立像・春日神鹿像 鎌倉時代 個人蔵
6. 十一面観音立像(前田青部、白洲正子旧蔵) 平安時代 小田原文化財団
7. 弥勒菩薩立像 鎌倉時代 個人蔵(旧興福寺伝来)
8. 本宮御料古神宝類のうち黒漆平文唐櫛筒 平安時代 春日大社 国宝

※文化財保護のため会期中一部展示替があります。  
詳しくは金沢文庫ホームページでご確認ください。



7



6



5

### 春日神霊の旅に寄せて

杉本博司

私はアーティストとしての靈感を何処からともなく感受してきた。若い頃は、それが私の心の底から湧いてくる何ものかだと思っていた。しかし齢を重ねるにつれて、もともと私の心は空虚で、その空虚を満たし来る何ものかによって、私は躁られていると感じるようになっていった。特に30代から始めた古美術収集の過程で、私が特別に惹かれたのが平安初期の弘仁仏や貞観仏と呼ばれる仏像だった。まだ仏師と呼ばれるような職人集団が生まれる前。仏の姿は仏を感得し得た修行者のみはその姿を具現し得たのだ。それ以前の奈良時代、仏の姿は隋や唐の様式を真似て作られた。平安の御代になって、日本人は日本人の心に観想される仏を削りだせるようになってきたのだ。そしてその姿は神とも仏ともつかない混淆する姿になってゆき、それまでは、目には見えないとされてきた神の姿も形作られるようになる。

私には私の心にも同じようなことが起きているのではないかと思うようになっていった。私は古美術収集の過程で、30代に春日鹿曼荼羅を入手し得たことによって、そしてその書を毎日見続けることによって、その書の精髓を我が身に浸透させることができたような気がした。それからというもの、不思議なことに私が探し回るといふよりも先に、春日信仰に関連する古物が私の目の前に立ち現れるようになっていった。私には拒否権はないのだ。時には後になって、それが春日信仰の遺物であることが判り、私を驚かせることも度々あった。私の作品は私の収集とともに成長していったように感じる。

今私は、私の遺作と位置付ける「小田原文化財団 江之浦測候所」に春日社を招魂するにあたり、神護景雲二年、常陸から大和への旅の途次、神霊がこの地をお通りになった故事に思いを馳せ、この展覧会を企画することで、私の心の旅路をも辿れるのではないかと思う。この展覧会には私がいちばん見てみたい展覧会なのだ。



8

### 杉本博司

1948年生まれ。1970年渡米後、ニューヨークを拠点に制作を続ける。代表作に「海景」「劇場」シリーズ。2008年に建築設計事務所「新素材研究所」、2017年「小田原文化財団 江之浦測候所」を開設。古美術、伝統芸能に対する造詣も深く、演出を手掛けた『杉本音楽 曾根崎心中』公演は海外でも高い評価を受ける。2019年秋には『At the Hawk's Well (鷹の井戸)』をパリ・オペラ座にて上演。1988年毎日芸術賞、2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞(絵画部門)受賞。2010年秋の紫綬褒章受章。2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ叙勲。2017年文化功労者。日本経済新聞に連載された『私の履歴書』に大幅加筆した『影老日記』(新潮社)が2022年3月に刊行予定。

### 公益財団法人小田原文化財団

2009年設立。古典演劇から現代演劇までの伝承・普及、美術品等の保存・公開、現代美術の振興発展に寄与することを目的とし、2017年秋に開館した「小田原文化財団 江之浦測候所」を拠点にして、神奈川県及び小田原市との協力関係のもと、活動を続けている。

### 神奈川県立金沢文庫

鎌倉時代中期に執権北条氏一族の北条実時が、金沢(現横浜市金沢区)の屋敷に開いた武家文庫に起源を持つ。金沢文庫は、南北朝時代以降は隣接する称名寺に引き継がれたが、所蔵する「金沢文庫本」は、徳川家康をはじめ権力者達により持ち出され、現在は各所に伝来し国宝などに指定されている。金沢文庫は、江戸時代には有名無実化してしまっていたが、明治30年(1897)に伊藤博文により称名寺内に再興。称名寺に残った多数の宝物類を公開した。昭和5年(1930)には昭和天皇御大典事業として、神奈川県立の施設として再整備。現在は国宝の称名寺聖教・金沢文庫文書を中心に、2万点以上の文化財を保管。中世歴史博物館として、仏教文化や仏教美術などを主なテーマに、調査研究とともに展覧会も行う。

関連プログラム (すべて令和4年開催)

特別講演会「春日信仰と小田原文化財団 ―春日神霊の旅展によせて」

3月19日(土) 14:00～15:45

場所: 小田原市三の丸ホール大ホール(神奈川県小田原市本町1-7-50)

登壇者: 花山院弘匡氏(春日大社宮司)

多川俊映氏(興福寺寺務老院)

杉本博司(現代美術作家、小田原文化財団設立者)

瀬谷貴之(神奈川県立金沢文庫主任学芸員)

ご挨拶: 湯山賢一(神奈川県立金沢文庫長)

受講料: 2,200円

※申し込み方法は、小田原文化財団および金沢文庫の公式HPにてお知らせいたします。

小田原文化財団 公式HP: <https://www.odawara-af.com/ja>

金沢文庫 公式HP: <https://www.planet.pref.kanagawa.jp/city/kanazawa.htm>

本講演会は、小田原市民ホール開館記念「市民優待企画」事業として開催されます。

講座「春日神霊の旅展」シリーズ

場所: 神奈川県立金沢文庫 大会議室

時間: 13:30～15:00

「春日若宮信仰と美術」松村和歌子氏(春日大社国宝殿主任学芸員) 2月26日(土) 締切日: 2月13日(日)

「春日信仰の絵画」谷口耕生氏(奈良国立博物館学芸部教育室長) 2月27日(日) 締切日: 2月13日(日)

「春日信仰の仏像」瀬谷貴之(神奈川県立金沢文庫主任学芸員) 3月5日(土) 締切日: 2月20日(日)

「春日信仰の工芸」清水健氏(東京国立博物館主任研究員) 3月6日(日) 締切日: 2月20日(日)

「仏舎利と春日神への憧憬―春日舍利厨子をめぐって―」

多川文彦氏(興福寺国宝館学芸員、帝塚山大学非常勤講師) 3月12日(土) 締切日: 2月27日(日)

各定員: 50名(定員を超えた場合は抽選)

参加費: 無料(ただし当日受付で観覧券をお求めください。)

申し込み方法:

金沢文庫HP「講座申込フォーム」または、往復はがき(1講座につき、お1人様1通)に、

講座名(開催日)、住所、氏名、電話番号を明記の上、各申し込み締切日必着にてお申し込みください。

会期: 令和4年1月29日(土)～3月21日(月・祝) ※前期: 2月23日(月・祝)まで 後期: 2月25日(金)から

開催時間: 9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日: 毎週月曜日(ただし3月21日は開館)、2月24日(木)

観覧料: 20歳以上 800円(700円) 20歳未満・学生 600円(500円) 65歳以上 200円(100円) 高校生 100円

中学生以下・障がい者の方は無料。※( )内は20名以上の団体料金。

会場: 神奈川県立金沢文庫

〒236-0015 神奈川県横浜市金沢区金沢町142

TEL: 045-701-9069 FAX: 045-788-1060

交通案内: 京急線「金沢文庫駅」東口より徒歩12分(快特で品川駅より33分、横浜駅より16分)

シーサイドライン「海の公園南口駅」より徒歩10分(JR根岸線 新杉田駅接続)

※ご来館の際は、新型コロナウイルス感染症まん延防止へのご協力をお願いいたします。

発熱等、体調のすぐれない方はご来館をお控えください。

状況により会期や関連プログラム等を変更あるいは中止する場合がありますので、

最新の情報は、神奈川県立金沢文庫ホームページまたはお電話でご確認ください。

金沢文庫公式Twitterでも随時情報を発信いたします。

次回予告

特別展 名品撰品 ―称名寺・金沢文庫の名宝への学芸員のまなざし― 令和4年3月26日(土)～5月22日(日)



令和3年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業